

令和2年度 第2回 すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	令和3年3月12日(金)	午後6時30分～8時00分
○場 所	オンライン開催	
○出席委員	箕輪委員長、松田委員、藤野委員、鶴川委員、勝又委員	
○事務局	子ども政策主査、子ども育成課長	他

1 開会

事務局より資料確認

2 議事

(1) 委員長選出

(2) 令和2年度すくすく泉事業実績(見込)について/令和3年度すくすく泉事業計画(案)について

(1) 委員長選出

【事務局】

武蔵野市すくすく泉事業実施要綱第7条に、委員長は互選により選出するとある。委員長の推薦者はいるか。

(委員長に箕輪委員を推す声)

委員長に箕輪委員をという声があったが、よろしいか。

(異議なし)

それでは、ここから進行役を箕輪委員長に行っていただく。

(2) 令和2年度すくすく泉事業実績(見込)について/令和3年度すくすく泉事業計画(案)について

※運営団体NPO法人いずみの会が入場

いずみの会より以下の説明があった。

【いずみの会】

○資料2 令和2年度すくすく泉事業実績(見込)について

・各事業共通である新型コロナウイルス対応について。2020年春の緊急事態宣言で、ひろば、一時預かりが閉まった。常勤職員が中心となって保育に当たったが、自宅待機の職員はリモートワークを行った。おもちゃを手作りしたり、資料を整理したり、本等で勉強するこ

とも含めてリモートワークという形をとった。会議や事務仕事もリモートワークで出来る仕組みを整えた。消毒についても、厚生労働省のサイトを参考に新型コロナウイルスに効果があるものに変更した。

再開後は、施設の玄関に柵を設置し、利用者さんにはそこでいったん止まっていただいて、検温と消毒を徹底する体制を整えた。また、不特定多数の親子が利用するひろばと、保育を分けるために、保育の利用者は公園のデッキ側から入っていただくことにし、足元が暗いところにはライトを付けた。また、保育室では、緊急メールの他に個別のメールで細やかな対応ができる体制を整えた。

一時預かりは時短とし、定員も減らしている。

年末に、保育職員から一名感染者が出たが、事前に準備していたことで最小限の対応で済んだ。子ども育成課には感謝申し上げたい。

・ひろばと一時預かりについて。6月の半ばに再開後、日常的な居場所が失われた親子のために、なるべく緊急事態前と大きく変わらない体制・雰囲気を中心とした。親同士の地域での支え合いや関係が始まる場である、ということを中心に考えてきた。おもちゃを減らしたり、消毒をするため午前・午後で年齢制限をしたりと工夫はしているが、なるべく来たい時に来られるひろばをキープしようと努力してきた。どこまで予約制や人数制限をせずにできるか懸念していたが、実際には利用者さんも協力してくれ、ゆずりあいでも運営できている。一時預かりは、9月くらいからかなり利用が増えてきている。今年に入り、2月からは新規登録者も20人以上おり、3月は10時から16時まで予約がとれないような状況になっている。

事業効果についてだが、緊急事態宣言下は、ひろばが閉まっていたので、隣の公園に向かって、決まった時間に「いずみの鳩時計」として手遊びや読み聞かせなどの活動をした。毎日11時に公園に行くと誰かに会えるということが、生活のリズムを整えられる点や短時間でも誰かと話すことで不安の解消につながったという点で大変ありがたいというお声をいただいた。また、ツイッターで、お家で過ごすためのヒントをスタッフがアップした。役に立つ情報というよりはつながりたいということで、くすっと笑えるような内容も多く入れたので、毎日見ていたというお声も聴くことができた。スタッフの名前も入れていたので、利用されている方たちは親しみをもって見ていただけたと思う。Zoomを利用したオンラインでの親子ひろばを地域の別団体が行っていたが、そこに参加させていただいて知っている顔に会えたりもした。再開後は、ニーズに合わせてリモートで講座を開いたり、人数を制限したり、内容によって工夫を重ねてきた。「コロナ禍においても安定して自然に存在し、不安を煽ることなく、また軽視することなく、以前のままの家庭の延長のようにつろげる場所」をテーマとして活動してきた。

コミセンが再開した9月から、中町集会所でコミセン親子ひろばを担当しているが、第1子の低月齢の利用が少なくなっている。毎回ちゃんと予約して来てくれているという状況である。

・保育について。大きな事故無く一年を終えることができた。「子どもを愛し尊重します」という理念をもとに、保育の質を高めるということ、コロナ禍ではあるがやってこられた。保護者のアンケートでは、一人一人への丁寧な保育に対して評価が高かった。

4月から、新規常勤保育士1名が加わり、それまで常勤保育士は1名だったので、1日を通して保育を見られる人が増えることで、保育の連続性と子どもの安定、給食を含めた全体の連携が良くなった。

家庭との連携については、Zoomで保護者会を開いた。また、おたよりでは保育で大事にしたいことをトピックに載せて、イヤイヤ期のことや、「けんかをしている時こういうことが育っています」ということ等をお伝えしてきた。12月には「おうち文庫」を作り、保護者向けの子育てのヒントになる本を並べ、その中にはホッとできるような漫画も入れた。日々の子育てで困ったときに、新しい発見をしてもらいたいと思って作った。また、保護者からの声で、おむつとおしりふきを園で用意する新しい取組みも来年度から始める。

研修や会議を通して、子どもの心や体、周りとの状況を読み取って柔軟に対応する目標をもって事例研究を続けてきた。専門的な勉強をしたり、巡回の先生に指導していただいたり、給食の人も含めてチームで連携して配慮できたのは良かったと思う。

ひろばの親子対象プログラムであるベビーマッサージの後、保育園見学ツアーを新たに始めた。離乳食を食べている様子などを実際に見ているいろいろな発見があったようで、いいプログラムになっていきそうなので、来年も続けたいと思っている。

・達成目標に対する評価・反省について。コロナ禍において連携が難しい部分もあったが、工夫を重ねてきた1年だった。緊急事態宣言時に、おもちゃを手作りしたり、壊れたおもちゃの修理をしたりできたことで、保育環境が向上された。また、勉強する時間ができたことで、2名が保育士資格をとることができたのも良かった。低月齢のお子さん向けプログラムは、予約制で時間をずらしたりして、できるだけ早く再開を実現させた。地域との連携はコロナ禍では難しかったが、地域のお年寄りが、手編みのベビー用ニットキャップをたくさん編んで寄付してくれ、掲示してお譲りする活動ができた。これはお母さんたちに大変喜ばれた。そのように、つながりが途切れない工夫をしてきた。また、発達に不安がある親子を、ぐるりんと情報共有し繋いであげるといったサポートもできた。施設の設備については、スロープの屋根をようやく付けていただいて大変感謝している。保護者の方々もベビーカーが濡れないと喜んでいる。

会計報告については、資料をご覧いただきたい。

#### ○令和3年度すくすく泉事業計画

・ひろばと一時預かりについて。力を入れて取り組みたいことについては、まだコロナが収束しそうにないので、0歳、1歳を中心にサポートしていけるようないろいろなプログラムを考えていきたい。リモートワーク等が増え、家庭の状況が変わりニーズも変化しているので、

保護者の情報を得ながら、何をすべきか考えていきたい。

父親のひろば利用がとても増えている。お父さんが育児を楽しむようになっていて、お父さん同士が待ち合わせして一緒に来ることがあったり、お出かけしたりしている。逆にリモートワークで母子が外に出ていかなければならなかったり、外に行くのを止められたりもしている。

防災関係のことをこれまでもやってきたが、コロナによって地震のことまではなかなか話し合いができなかった。しかし、一度リモートで東京都の講座に利用者さんと一緒に参加して、一緒に学ぶという機会を作った。

一時預かりは引き続き予約がいっぱいだが、出来る限り必要な方が予約できる仕組みを考えていきたい。スタッフの質の向上も目指していく。

・保育について。2名採用した保育士のうち1名が辞退されたことで、A型に移れなかった。来年度もB型でいくことになる。A型への移行を目指して採用を続けていきたい。1名入った新規採用の方を含めて、良いチームを作っていくのが今年の大きな目標となる。

日々、保育が終わった後の10分でも、ミーティングで違和感や良かったことを共有している。令和2年度は「読み取ってみたら」をテーマに研修していたが、来年度もスタッフの皆さんのニーズに合わせたテーマをもって研修をしたいと思っている。外部研修に今年はほとんど行けなかったので、積極的に参加していきたい。

来年度は保育9名でのスタートになる。5月から保育10名になれるといいなと思う。0歳児のニーズが減っている気がする。預ける方も、短時間でいいと言われることもある。

おうち文庫の充実やおたよりなど、日々の関係づくりを大事にしていきたい。

会議や事務の効率化はずいぶん進んだと思うが、質を落とさないようにしながらさらに進めたい。

会計については資料をご覧ください。

こらぼのについては、来年度も月2回続けていく。コミセンでの実施なので、コミセンの方と相談しながらやっていきたい。

ボランティアさんとの関わりについては、やりたいことはあるが状況を見ながらになる。中高生のボランティア受け入れなど来年はやっていきたいと思っている。コロナが終息しておらず人と人との関わりが難しいが、計画をできるだけ工夫しながら実行していきたい。リアルとリモートをうまく使い分けていきたい。

<質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

#### 【委員】

決算見込みについて。資料4の2ページ目、スタッフの給料について、小規模保育はプラスで、一時預かりはマイナス、ひろばはほぼ予算通りということだが、一時保育は非常勤の

方が多いのか。マイナスになっている理由を教えてください。

**【いずみの会】**

テレワークという形をとっており、コロナでの休園中は大半の職員が自宅で研鑽を積んでくれたため、それに対して給料を支払っていた。そのため、金額についてはほぼ通常通りに近い額で推移している。

一方、保育は常勤だけが出勤して回す期間があったため、給与の払い方が変わっている。処遇改善が去年より大幅にアップし、人件費に入れている率がかなり多くなっている。その分、予算としては実績と差が出ている。

**【委員】**

一時預かりは、テレワークで勤務時間が短くなったということか。

**【いずみの会】**

一番大きな理由は、通常時は5名だった預かりの人数を3名に制限しており、必要な職員数も減っていることだ。

**【委員】**

来年度5名に戻す予定はあるか。

**【いずみの会】**

状況に合わせて増やしたいが、ひろばの利用者が多いため、まだ先になる見込みである。

**【委員】**

毎回、丁寧な運営に感激している。

さて、妊娠期からのアプローチについて、妊娠期の方とつながる手立てが特にコロナ禍で難しく、求められていると思う。その部分について今後していきたいことや、市のバックアップなど支援が欲しいことはあるか。

**【いずみの会】**

まず私たちの工夫としては、4月から「初めての広場」という取組を始める。初めてひろばに来てくれる妊婦さんから12カ月のお子さんまで、予約制で来ていただく。私たちがプログラムを作っており、案内や手遊びなどをしてひろばの皆さんにつないでいく。初めて来るのはとても勇気がいるし、妊婦さんにとってはまだ子どもが生まれていないのにひろばに来るハードルが高いので、そういった日に来てくれるといいなと思っている。

市のバックアップについては、子育て世代包括支援センターという形が始まることで、母子保健との連携が今まで以上にできるのではないかと期待している。妊婦さんに直接、ひろ

ばへの案内をしていただけることを期待している。

#### 【委員】

社会的には、なるべく家庭的な環境でということで、里親を推奨している。そういった方や特別養子縁組を含めてひろばに来てほしいと思うが、そういった部分で何か取り組まれていることはあるか。

#### 【いずみの会】

特別養子縁組の方は実際いらっしゃっており、スタッフは情報を把握している。なるべく、どういった方がいらっしゃってもゆったりと過ごしていただける施設でありたいと思う。現在進めているのは障害をお持ちの方との相互理解の取組みだが、特別養子縁組や外国の方など、様々な事情がある方との相互理解を進める取組みを行っていききたい。

#### 【委員】

私は武蔵野市で里親をしている。武蔵野では里親のグループがなく、できれば連携が必要な方とつながって、子育て支援施設を利用できたらいいなと今のお話を聞いて思った。

障害の話が出ていたが、ぐるりんとつながっているということでいい動きをされていると思った。一方で、ハビットやぐるりんなど専門的なところに行けなくても発達で悩んでいらっしゃるご家庭もあると思う。そういった方が相談できる先が少ないと聞くが、そのあたりの取組みもしていただけると良いのかなと思う。

#### 【委員】

妊婦とのつながりの話で、4月から子育て世代包括支援センターの体制ができ、健康課で行っている母子手帳の交付に加え、子ども家庭支援センターでも保健師を配置して母子手帳を交付し、ゆりかごむさしの面接についても健康課と子ども家庭支援センターでデータ連携を図り、一定程度、子ども家庭支援センター内で妊婦さんの把握をできるようになる。ゆりかごむさしの面接では、プレママの支援をしている場所など、妊婦さんに寄り添って必要な情報提供をしていくことができると考えている。

0123 施設の利用ニーズが高くなっているという話もあるが、実際は、利用者のお子さんの年齢層はどのくらいなのか。また、小規模保育で、特例保育の方だけ受け入れていたと思うが、実際何名くらいだったか。また、その際の給食の工夫はどうされていたか。

#### 【いずみの会】

ひろばについては、1歳児が一番多い。一方、0歳の低月齢が少ない。里帰り出産から戻ってきていないのかもしれない。また、小さいうちは、人が集まる所へ行くことへの懸念があるとの声もある。第2子、第3子は低月齢でも来るが、第1子は来ない。こらぼのも同じ状況だと思う。2月には、ベビーマッサージが初めて予約ゼロだった。緊急事態宣言の影響

もあると思う。

保育については、緊急事態宣言下の4月は希望者3人、5月は4人だった。咳や熱が出る  
と2週間お休みになっていたが、保育がゼロの日はなく、少なくとも一人は来ているという  
状態だった。給食については、5月はおやつを持参してほしいことを保護者にお願いして対  
応していた。

#### 【委員】

コロナ禍で、様々な新しい取組みをされたと思うが、今後も全て継続される予定か。コロ  
ナが終息した後も繋がっていくと考えているか。

#### 【いずみの会】

Twitterで生活のヒントを発信することは今はやっていない。先日、ひなまつりの会を鳩  
時計の形で実施した。また、大人数が参加できるリモートの方が有効なものもあるので、続  
けていきたい。防災のほか、初期の離乳食講座が意外とリモートと相性が良かった。一方、  
集まってやりたいものもあるので、人数を絞ってリアルでやるというように併用してい  
きたい。また、インスタを始めたが、スタッフが若くないのでなかなか開始するのが難し  
かった。お母さんたちにいろいろ設定をしてもらい、発信の仕方などのプランまで立てて  
いただき、始めることができた。楽しみながら発信をサポートしてくれており、お母さん  
同士で仲良くなっている。続けていきたいと思っている。

#### 【委員】

人材育成について。人数が少ないので、事業継続のために人材育成は重要だが、その点  
はどのように考えられているか。

#### 【いずみの会】

非常勤に関しては、最初からの人は6年ほどされているので、専門的な知識はかなり増  
えていると感じている。リモートで、ミーティングと勉強会を実施している。勉強熱心な  
方は積極的に外部の研修を受けている。勉強してきたことはミーティングでシェアし合  
っている。

保育の方は、新しい常勤保育士が入るということで、軸になってほしいと思っている。  
ただ、入ってすぐに重い役割を持たせるわけにはいかないなので、時間をかけてじっくり  
中心メンバーになってほしいと思う。

#### 【委員】

近くの保育園との連携はされているか。

#### 【いずみの会】

まちの保育園吉祥寺、日赤保育園と連携園になっている。また、近くの精華第一保育園とも公園でお会いするので、3園合同の研修会などを行っている。今年はコロナで実施できなかった。情報共有をしていくことで、地域での子育てのレベルが上がっていくと思っている。

#### 【委員】

ボランティアさんや職場体験のお話があったが、学校の方も行事の制限があるし、来年度のことは読めない部分が多いが、実施していきたいということで良いか。

#### 【いずみの会】

そうだ。世代交流は重要なことであり、やりたいことのひとつと考えている。

公園に遊びに来ている小学生と会う機会がすごく増えた。これまで、小学生は抱っこはなしなどという話もあったが、顔なじみになり、どういう子か分かってくると、ふれあいの範囲が増えても大丈夫と思える場合もある。

ひろばに関しては、利用者さんの感覚の部分も考えなければならない。すごく心配されている方もいるので、進め方の具合がとても難しいが、状況を見ながら進めていきたい。

#### 【委員長】

感染症対策で、職場体験をする中学校などに求めることはあるか。

#### 【いずみの会】

ひろばの利用でも、本人以外のご家族の体調も伺っている。その辺りの対応をしっかりとさせていただきたい。実際にやる場合、保護者の方に説明できるような具体的な対応を考えていきたい。

#### 【委員】

中学生にとっても一度しかない職場体験の機会なので、リモートで保育の形を学ぶということになってしまうとしても、感染症が発生した時の職場の対応を子どもが知ることはできるし、何らかの形で職場体験として学べることもあるといいのではないかなと思う。是非工夫をしていただきたい。

#### 【いずみの会】

ひろばを実際に利用されている方と、予約制で15分だけリモートでつながる「いちごひろば」を行っている。その拡大版で、リモートで中高生とお話することもできるなど思った。考えてみたいと思う。

#### 【委員長】

大学の保育の実習で送り出すとき、大変工夫を重ねた。一カ月前からの検温と、嗅覚・味



覚のチェックや不要不急の外出をしないことなどを、誓約書を書いてもらって実習園に提出した。園も、保護者も、かなり安心できたとのことなので、対面でされるとしたらそういった工夫を重ねられると良いと思う。

#### ※NPO法人いずみの会が退場

<審議>

##### 【委員長】

それでは審議を始めたいと思う。補助事業は適切に実施されているか、事業計画は妥当であるかという二つの観点で、ご意見をいただきたい。また、必要な意見を付すべきかという点でもご審議をお願いしたい。

##### 【委員】

2年度の実績については、コロナ禍だが感染症対策をしたうえで様々な工夫をし、出来ることを模索しながら運営いただいている。状況に応じて様々なツール等も使いながらやってきていただいております、適切に運営がされてきたという評価をして良いのではないかと思います。令和3年度についても、令和2年度の動きを受けながら様々な計画を立てていただいているので、適正な計画ではないかと思う。

意見を付すまでではないが、残念なのは小規模保育がA型に移行できなかったことで、引き続き来年度に向けて採用を続けてほしい。

##### 【委員】

コロナ禍で工夫をされていて評価できると思う。施設・設備の改善にも努められており、今後課題が出たらまた対応していただければ良いと思う。様々な利用者を受け入れる体制もできていると思う。

##### 【委員】

今後もぜひ頑張ってください。常勤保育士を確保できないことについて、条件が大変悪いと思う。東京の時給を考えると最低時給に近いと思う。この条件で来てくれる人を探すのは大変難しいのではないかと。施設の努力ではどうにもならない部分ではあるが、市と一緒に考えていただけるとありがたい。

##### 【委員】

事業については、工夫して対応されていると思う。人材育成はやはり難しい。常勤が2人という状況である。若い人は自分を成長させられる機会を求めると思うので、毎年同じことをやっても飽きてしまうのではないかと。組織が小さいので根本的に難しいとは思いますが、他の保育園との交流や連携などが必要かと思う。

**【委員長】**

コロナ禍の状況の中、限られた人数で丁寧にいろいろなことを考えられ、様々な工夫をされているというのは素晴らしいと思う。意見を付するという事ではないが、国や市からの補助金や支援が足りないのかと思う部分もある。

以上を踏まえると、令和2年度事業は計画に基づき適切に実施されていること、また令和3年度計画も妥当であることを認めても良いと思うが、いかがか。

(異議なし)

**【委員長】**

そのうえで、意見を付するほどではないが、今出た意見をいずみの会にお伝えしたり、市で考えていただいたりという形になるか。

**【委員】**

人材育成については、先ほどお話にあったように小さい組織ということもあり、制度的に団体の力だけで出来るということではないと思う。今後も、市からの情報提供は子ども育成課から行い、会計の処遇改善の部分は市と話し合いをしていく必要がある。団体からの相談も受けているので、その中で進めていく話かと思う。特別、委員会から意見を付する必要はないかと思う。

**【委員長】**

では、次のようにまとめたいと思う。「令和2年度において事業計画に基づいた事業を実施していること及び令和3年度について妥当な事業計画が立てられていることを確認した。」と団体にお伝えするという事によろしいか。

(異議なし)

3 閉会